

97

UDL (Universal Design for Learning)

東京大志学園

97

個別最適な学び

東京大志学園

97

個別最適な学び

授業・学習のゴール「主体的な学習者を育てる」

「指導の個別化」

子どもの特性や学習進度等に応じて、指導方法や教材等、柔軟に提供・設定する

「学習の個性化」

子どもの興味関心・キャリア形成の方向性に応じて、一人ひとりに合う学習活動や学習課題に取り組む機会を与えることで、子ども自身が最適となるよう調整する

東京大志学園

97

自己調整学習

学習者が自分自身の学習活動に能動的に関わり、自らの学習を調整するという学び方

自分自身の立てた目標を達成するために、学習に対する意欲や方法などを自ら観察・調整しながら（メタ認知）、効果的に学習を進めていくことができる

東京大志学園

97

東京大志学園でのUDL

東京大志学園

97

個別学習・習熟度別学習

- ・それぞれの学習の進捗に合わせて、目標、教科単元、使用教材、時間などを決めて行う時間
- ・教室により、週2～8コマ
- ・クラーク教員、大志職員、大学生ボランティア、ピアアシスタント等に対応
- ・振り返りシートや日誌を活用し、学習の振り返りを行う

東京大志学園

こんな学習場面があったら？

- ① 中学3年生なのに、中1の範囲をやっている
- ② ほとんどの子がワークやドリルをやっているのに、タブレットを使っている子がいる
- ③ 椅子に座らず、カウンターで立って勉強している
- ④ 丸テーブルで友達と話しながらプリントをやっている

岡山大学



こんな学習場面があったら？

大事なものは・・・

- その児童生徒にとって、やりやすいこと・やり方で学習に向かえているか
- 生徒自身で、できた・わかったと思える学習をしているか

岡山大学

関わり方のポイント

- ① 自分で決めさせる・選ばせる
 - 例) 一緒に本棚の前に行ってみる
 - 一緒にテキストをめくる
 - いくつか選択肢を用意して選ばせる
- ② やり方や取り組みの姿勢をすぐに評価する
 - 例) 「自分でプリント選べたね」
 - 「このやり方、〇〇さんに合ってたんだね」
 - 「目標達成までコツコツやってたね」

岡山大学